

「初めての窓口事務、初めての国保」

揖斐川町 住民課長

高木 英樹



平成29年4月の人事異動で住民課長を拝命しました。入庁して31年、これまで森林土木9年（9年間で7回も会検に当たる）、一般土木7年、土地改良4年、教育委員会で学校耐震化3年と現場畑ばかりを歩いてきた私にとって寝耳に水の異動でした。

当町では国保事業を住民課で担当しており、国保税の賦課徴収、資格管理、保険給付事務を行っています。

さらに、戸籍、住民基本台帳、マイナンバーカード、旅券発行、後期高齢者医療、福祉医療、年金などの各種事務を10名のスタッフで対応しています。

前任課長からの引継で、「来年国保の制度改正があるから大変だよ」と言われたことを昨日のように覚えています。

着任してすぐ、「国保のことば」を読みあさる。専門用語が並んで何のことやら。

ほどなく、国保制度改革検討会の傍聴案内がある。制度が変わると聞いていたので、傍聴することにしました。

傍聴してみても、「おっしゃる意味がわかりません」状態。これはまずいと、近隣市町の担当者の方に解説いただき、何となく理解して帰庁。「この先、上司、運協、議会への説明ができるのか」ますます不安が募りました。国保制度改革検討会の傍聴を重ねるたび、近隣市町の皆さんに解説をいただきました。

大変ご迷惑をおかけしましたが、国保制度

の概要は何とか理解することができました。

国保運営協議会で委員の皆さんに制度改正概要をお伝えし、議会予算委員会でも制度改正と予算編成内容を説明、質問にも対応することができました。

特に池田町のKさんには手取り足取りご指導いただき感謝に堪えません。

それにしても、30年の勤務経験でこれだけ毎月多額の支払があるのは初めてで、大変な驚きでした。また、インフルエンザが猛威を振るった昨年末、どの程度保険給付が伸びるのだろうかと心配が尽きませんでした。

先が読めない、予算不足と常に隣り合わせ。先輩方のご苦労がよくわかりました。

今年度から県が財政運営の主体を担うことで、給付費の予算不足からは解消されますが、被保険者数が激減しており、保険税収入が年々減少しています。

県から示された保険料必要額とのかい離が予想より少なかったため、今年度の税率改定は見送りましたが、一般会計から繰入をしている状況が続いており、健全な財政運営へ向けた取り組みを財政局から強く求められています。

今年の本算定の結果次第では、税率改定に向けた準備を本格化させる必要があるのではないかと思っています。

近隣市町の皆さん今後ともご指導よろしくお願ひします。